

登録コード	J6130200	開講年度	2026				
授業科目	環境法					担当教員	小林 寛
英文授業名	Environmental Law					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・4時限	対象学年	(20・23カリ対象科目)法：2年
講義室	経法第3講義室	授業区分	講義	遠隔授業科目			
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	経法20加 現代社会が抱える課題に対して、社会科学の専門性を軸足とする解決方法を提案し、自然科学と協働しながら環境問題の課題解決に導くために、環境法（主に総論）に関する基礎的な法概念や理論、判例について説明ができるようになる。 経法23加（2026改）・総合法律，経法23加・総合法律 法学の専門領域の基礎能力として、リーガルマインドを備え、現代社会の諸問題を法的に解決していく上で必要な法学体系の基礎専門知識を身につける。 経法23加（2026改）・総合法律，経法23加・総合法律，経法20加・総合法律 環境問題や、企業や行政の組織内において、日々生起する諸問題について、理工学分野や経済学分野の思考方法にも一定の理解を持ち、総合的に解決していくことのできる能力を身につける。						
	・現代社会が抱える課題に対して、社会科学の専門性を軸足とする解決方法を提案し、自然科学と協働しながら環境問題の課題解決に導くために、環境法（主に総論）に関する基礎的な法概念や理論、判例について説明ができるようになる。 ・リーガルマインドを備え、現代社会の諸問題を法的に解決していく上で必要な環境法（主に総論）に関する基礎的な法概念や理論、判例について説明することができるようになる。 ・環境問題や企業及び行政の組織内で生じる問題について、環境法（主に総論）に関する知見を基礎に、理工学や経済学分野の思考方法をも踏まえた総合的な解決方法を提示し、その内容を説明することができるようになる。						
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース						
(4)授業の概要	環境の保全を目的とする法制度または法領域の一群を環境法といいます。環境法 では、環境法の総論的事項を中心とした解説を行います。前半部分は、生成経緯（いわば歴史）、基本理念・原則、環境政策の手法、環境基本法等の解説を行います。後半部分は、環境影響評価法や環境汚染の防止・対策などの個別の法制度の解説を行います（ただし、個別の法制度はこれに留まらず、さらなる詳細は環境法に続きます）。以下のとおり講義計画を予定しますが、講義の進捗状況等によって、計画を変更する場合もあります。						
(5)授業計画	第1回 イントロダクション 環境法とは？環境法学における環境とは？ 第2回 環境法の生成経緯（1）公害法の生成・確立 公害事件を素材として 第3回 環境法の生成経緯（2）環境立法・行政の停滞と環境法の新展開 第4回 アデレード大学（オーストラリア）との国際共修，環境法の基本理念・原則（1）持続可能な発展 環境権 第5回 アデレード大学（オーストラリア）との国際共修，環境法の基本理念・原則（2）未然防止原則・予防原則 原因者負担原則 第6回 環境政策の手法（1）総合的手法・規制的手法 第7回 環境政策の手法（2）誘導的手法（経済的手法・情報的手法）と合意的手法 第8回 環境基本法（1）制定経緯 目的・基本理念 環境基本計画 第9回 環境基本法（2）その他の基本法 原発事故と環境法の対応 第10回 中間試験＋環境影響評価法（1）制定経緯・基本構造 具体的事例（発電所等） 第11回 環境影響評価法（2）戦略的環境アセスメント 法と条例の関係等 第12回 大気汚染 第13回 水質汚濁 第14回 土壌汚染 第15回 化学物質の審査・製造等規制・管理に関する法制度， 授業アンケート 期末試験						
(6)成績評価の方法	期末試験（70％）、中間試験（20％）、レスポンスペーパー（第3回目以降，原則として毎回実施）に対する回答を含む授業への積極的取組状況（10％）						
(7)成績評価の基準	授業で解説した基本的事項に関する選択式問題又は穴埋め問題に答えることができれば「水準にある」，説明問題に対する適切な記述ができれば「やや上にある」，事例問題に対して論理一貫性のある解答ができれば「かなり上にある」，全ての問題に対して説得的な解答ができれば「卓越している」。						
(8)事前事後学習の内容	毎回の授業の終了時に次回の授業内容の予定を述べるので教科書の該当箇所を読んだうえで授業に臨むこと，授業終了後は教科書の該当箇所および配布資料の読み込みを行うことが必要です。授業の際に配布する場合があるレスポンスペーパーに授業終了時に講義担当者が発問する問いに対して回答して授業後に確認すること，授業終了時に課題を出す場合があるので，当該課題に対する作業を次回授業時までに行うことが必要です。						
(9)履修上の注意	毎回の授業に出席しノートをとること（配布資料の穴埋めなど），レスポンスペーパーに回答することが必要です。また，環境法 は環境法 の前提となる科目であり，環境法 を受講することによって環境法の学修が完了するので，後期の環境法 も併せて履修するのが望ましいと思います。						
(10)質問,相談への対応	授業中および授業後に質問をお願いします。授業後は研究室にお越し下さい。来室の際にはメールで事前に来室日時をご相談ください。 メールアドレスは hkoba@shinshu-u.ac.jp です。						
【教科書】	大塚直『環境法Basic[第4版]』（有斐閣，2023年）						

【参考書】	大塚直『環境法〔第4版〕』（有斐閣，2020年），北村喜宣『環境法〔第6版〕』（弘文堂、2023年），交告尚史・臼杵知史・前田陽一・黒川哲志『環境法入門〔第4版〕』（有斐閣，2020年），淡路剛久編集代表『環境法辞典』（有斐閣，2002年），大塚直・北村喜宣『環境法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2018年）
-------	--